

オリダ通信

第12号

共同代表: 松本敏之、大倉一郎
事務局: 横浜港南台教会 秋吉隆雄
〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29
Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616
郵便振替口座番号: 00210-2-97571

感謝と喜びを共に

小井沼眞樹子

真夏のブラジルからフェリス・ナタール!

いつも多くの皆さんからのお祈りと尊い献金をありがとうございます。折に触れて届くカードやお便りにも励まされています。この紙面を通じて心から感謝申し上げます。

★ついに落成式をしました!



懸案のコミュニテイ・センター落成式が、去る11月29日(土)に行われ、多くの参列者と感謝と喜びを分かち合いました。日本の皆さんに招待状がメールで届いたのは落成式の2週間ほど前でした。遠いブラジルまで来てくださるには、あまりにも切羽詰っていたので、皆さんに転送しませんでした。ノルデスチ教区から日本の皆さんへの感謝をお伝えしたいと思います。



クレシェの子どもたちのダンス



“感謝”を歌うアルト・ダ・ボンダージ教会の女性コーラス



小さな者が「地の果て」から呼び出され…と挨拶



信徒リーダー・ジャニさん(中)と保育園長ヘジャニさん(右)

まだ内部の備品設置や、園庭の整備、市政府との交渉も進行中で、忍耐して待つよりほかかない状況が延々と続いています。それでも、とにもかくにも落成式を済ませてほっとしました。

ビスパ(監督)マリーザは病気で不参加、一番よく働いたG牧師も他州に転任し参加できず、残念至極!

2月の新学期から新園舎で、多くの子どもたちの楽しい生活が始まることでしょう。

会計報告

省略

ご協力ありがとうございました!

★今年の評価と今後の予定

アルト教会は、5月から主任牧師が家族の介護と、自身の健康問題で教会の責任から退き、無牧状態となりました。教区の責任的立場にあるサムエル牧師が、月に一度説教と聖餐式に来るほか、教会の諸問題にも相談相手となっています。実際はジャニさんを中心に信徒だけで教会の活動を続けてきました。音楽教室(ギター、ドラム)、空手教室などの社会奉仕も、また参加者が増えてきて賑わっています。

先日12月6日に、今年最後のリーダー会が持たれ、各部門のリーダーたちがそれぞれ今年1年を振り返って、評価しました。賛美グループ、祈祷会、教会学校、信徒養成会、家庭礼拝、女性会などについて、皆の感想、意見を聞くにつけ、一人ひとりの主体性がとても成長していると感じさせられました。

主任牧師がいなくて困ったことは、個別訪問が減って、個人的なケアが不足したことくらいで、あとは信徒たちがそれぞれ持ち味を存分に発揮し協力して、信仰共同体を続けていくことができたことに、皆が感謝し一体感を味わっています。

私自身も、この「神の家族」の中で支えられ、慰めを受けてきました。月に1度の拙いボ語の説教も、信徒は忍耐を持ってよく聴き、祝祷を喜んで受けています。

2015年はどういう展開になるか、話し合いました。私の任期が上半期で満了することは、あまり口に出さずにいますが、気づいている人もいるでしょう。

上半期の大きな課題は、クレシェが新園舎に引っ越したあとの施設を改築して、社会活動の教室として用いるプロジェクトです。再度、多額の資金が必要なことから、これを私の任期中にぜひとも成し遂げたいと思っています。

現在の音楽教室、空手教室のほかに、コンピューター教室も開始したいと願っています。若者が麻薬に手を染めるのを防ぎ、仕事に就く技量を身に着けるためにも、コンピューター教室は重要です。女性たちは、体操や手仕事、コーラスをする場所を欲しています(現在は教会堂を使用)。

どうか、神様が私たちの必要のために、多くの協力者を起こしてくださいませように!

ブラジル大統領選挙の経過とその後

★黒い箱に入る

2002年に、労働党から初めてルラ（ルイス・イナシオ・ルラ・ダ・シルヴァ）が大統領に選出されて以来、ブラジルの社会状況は大きな変化を遂げた。一番大きな功績は飢餓ゼロ政策を打ち出し、ボルサ・ファミリアと称する生活保護手当を貧しい家庭に支給するようになったことだ。

ルラの任期8年終了後、後継者としてジウマ・ルセフが初の女性大統領として立った。そして4年第1期が終了し、今回の大統領選挙を迎えた。

12年間労働党が政権を取ってきたわけで、社会格差の大きいブラジル社会では、富裕層、エリート層が労働党の政権を何とか覆そうして、激しい選挙戦が展開された。

ジウマ現大統領の対立候補として、社会民主党（PSD）から、エドワルド・カンボスとマリーナ・シルヴァが立候補した。ところが、公的選挙運動が開始されてから数日後に、ヘリコプターが一台墜落した。そこにエドワルドほか6名が乗っていたのである。全員死亡、原因は不明。TVニュースも原因追究に関しては寡黙であった。多分黒い箱に入った（暗殺された）のだ、と人々は囁いていた。ブラジルならこういうことが起きても不思議でないようだ。

★白熱する選挙戦

エドワルドが消えて、同じ社民党からアエシオ・ネーヴィスが浮上した。54歳の中堅上院議員、経済景気回復政策を強硬に打ち出して、富裕層の支持を得ていた。

10月5日、第1回選挙ではジウマ、アエシオともに40パーセント台の獲得票、過半数には至らず、マリーナは27パーセントで決選投票から外れた。

アエシオと同じ社民党に属するマリーナの票がどちらに流れるかが注目のまどであった。メディアの予想では、初め、アエシオが有利であった。ジウマとアエシオが向き合い、市民代表者の質問に答えるなかで、白熱した政策説明会がTVで映し出された。

選挙活動が進むうちにジウマの支持率が上昇し始めた。



★フォリャ・デ・サンパウロ紙に投稿

決選投票日の朝、F.サンパウロ紙にジウマの投稿した記事が掲載されていた。以下は要約。

「ルラとジウマが政権を担ったこの12年間にブラジルは平和裡に変革を進めてきた。最低賃金は71パーセント上昇、2100万の雇用を産んだ。極貧を根絶し、4200万人が中産階級に上がった。ブラジルが貧困と不平等に挑戦してきた実績を国連も認めている。対外債務は2002年に国内総生産の60パーセントにも上っていたが、現在は35パーセントに留まっている。

政府の最も優先課題は国民の教育である。それが経済の競争力を安定させ、生活上昇を続けていく基本となる。教師の質を高め、学校数を増やす。

汚職と闘い、厳しく対処するよう制度を整える。ブラジルがさらによくなるには、国民が熱くならなければならない。ブラジルは民衆を政治の中心に置く。発展の新しいサイクルを造りだそう。」

決選投票の結果は、日本の新聞にも報じられたとおり、ジウマが51パーセント獲得して辛くも労働党政権は続行されることになった。

★選挙後の動き

ジウマは大統領に再選されると、早速、経済大臣と農業大臣に有能な銀行家と経済学者を起用した。「ジウマは裏切り者、それとも知恵者？」と言う見出しの記事が出た。

大変興味深いことに、それに対して多くの神学者（L.ボフ、F.ベットも加入）、牧師、知識人、宗教団体、市民団体、などそうそうたるメンバーが結束して“BRASIL QUE QUEREMOS”（＝私たちが望むブラジル）というグループを立ち上げ、大統領に手紙を書いて送ったのである。そこには、今後の政治に対して、あらゆる角度から改良のための提言が述べられている。

ジウマは彼らの手紙に応答して、すぐに彼らを招き懇談会を開いた。ジウマが公約に忠実に政治を進めるように、多く人々が助言した。

こういう動きは、昨年来、国中で起こった反政府デモ行動を確実に反映していると思われる。

今後の動向を期待して見守りたい。

編集後記

事務局 秋吉隆雄

「オリンダ通信-12号」をお届けいたします。眞樹子師は「アルト・ダ・ボンダージ教会」に遣わされ、3年任期2期、6年が経ちます。眞樹子師の明るく、いつも前向きな姿勢が教会員に信頼され、愛され、素晴らしい宣教活動を続けてこられました。風土も文化も違う所で戸惑いもあったでしょうが、貧しい人々との交わりの中で主イエスが共におられる喜びを実感しながらの宣教でした。待望のコミュニティ・センターの落成式を感謝の中で行われ、その喜びが伝わってきます。子供たちの憩いの場として有効に用いられることでしょう。

眞樹子師の支援は大きく、教会員からどれほど感謝されているでしょうか。眞樹子師は来年6月末をもって退任されます。しかし、眞樹子師のブラジル宣教は新たなブラジル宣教に向かい、日本の教会との橋渡しを続けられます。来年の夏に帰国され、その報告と続いての祈りとご支援をお願いすることになると思います。

会計監査は大久保徹夫氏から佐野匡牧師に変わっていただきました。長く監査してくださった大久保氏に心から感謝いたします。佐野牧師から適正であるとの報告を受けました。

皆様、良いクリスマスをお迎えください。